

## 今月のHOTニュース

### 高速道路で地震が起きたら……

もし、高速道路で大地震がおきたら……あなたはどうしますか。外出先で被害が起こる可能性もないとはいえません。そこで今回は、高速道路で車を運転しているときに大地震が発生した時の行動について紹介しますのでご参考としてください。

高速道路でクルマを運転しているときに、もしも大地震が起こったら、突然パンクしたときのようにクルマが激しく左右にゆれ、ハンドルをとられるような感じになります。そんなときには、決してあわてずに「地震の時の4大原則」及び「避難する場合の鉄則4箇条」にしたがって行動してください。なお、ラジオ等で緊急地震速報を聞いたときは、後続車両に注意し、急ブレーキをかけずに緩やかにスピードを落としてください。



| 地震の時の4大原則   | 避難する際の鉄則4箇条   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 道路の両わきに寄ってエンジンを止める</li><li>2. 地震情報や交通情報で状況を把握する</li><li>3. 自分の判断でみだりに走行しない</li><li>4. 警察や巡回パトロールからの指示があった場合は、それに従う</li></ol> | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 窓ガラスをしっかり閉める</li><li>2. キーをつけたままにしておく</li><li>3. 貴重品を車内に残さない</li><li>4. ドアをロックしない。連絡先がわかるようにしておく</li></ol> |

地震はいつ起こるかわかりません。  
もし起こったらどうすべきかを日頃から心がけるようにしておきましょう。

高速道路上にとどまることが危険な状態になった場合などは、慌てず落ち着いて高速道路から避難してください。

出典：首都高速道路株式会社HP <http://www.shutoko.jp/>

～地震保険のご加入はお済みですか？詳細は裏面代理店までお問い合わせください～

## 今月のHOTニュース

### 食中毒予防のポイント



細菌による食中毒は6～8月にかけて多く発生しています。これは、湿度や気温が高く細菌が増えやすいからです。ここでは家でも起こる食中毒を防ぐために、お買いものをする時の注意点を再確認してみましょう。

#### ◆食品を買うときは、お買いもの最後に！

※短期間だからと油断は禁物。食品は、日用品などを選んだ後に買いましょう。特に生鮮食品や冷蔵・冷凍の必要なものは食品の中でも最後に買いましょう。

#### ◆お店もしっかり選びましょう。

※新鮮な食品や質の良い食品を取り扱っているか、衛生的か、冷蔵・冷凍ケースがしっかり冷えているかなどの点に注意してお店を選びましょう。

#### ◆食品は必要な量だけ買うようにしましょう。

#### ◆肉や魚介類、卵、野菜などの生鮮食品は新鮮なものを購入しましょう。

※割れている卵は買わないようにしましょう。

#### ◆包装されている食品は、パッケージに破損がないか、確認してから購入しましょう。

#### ◆表示のある食品は、消費期限などをしっかり確認しましょう。

#### ◆購入した肉や魚介類は、ビニール袋などに入れて持ち帰りましょう。

※肉や魚介類から出る汁が他の食品に付くことを防ぐためです。

#### ◆冷蔵や冷凍の必要な食品を購入したら、氷やドライアイスを利用して、保冷して持ち帰りましょう。

#### ◆お買いものが終わったら、できるだけ早く家に帰りましょう。

※もちろん、冷蔵や冷凍の必要のないものしか買っていない場合には急ぐ必要はありません。

#### ◆車でお買いものに行っても、食品をトランクには入れないでください。

※車のトランクの中は温度がとつても高くなります。座席に置く余裕があれば、足元に置きましょう。

※トランクに入れなければならない場合には、必ずクーラーボックスを使いましょう。

出典：農林水産省HP <http://www.maff.go.jp>

安全で健やかな食生活を送るために <http://www.maff.go.jp/j/fs/index.html>「食中毒から身を守るには」

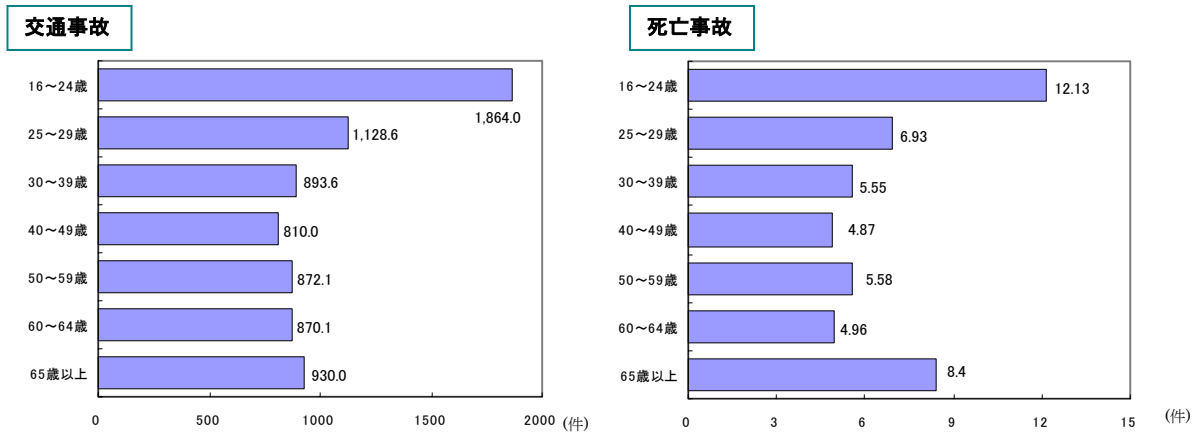
## 交通安全のポイント

今回は、最も事故発生率の高い若年ドライバーについて、その特性や事故防止のポイントについて考えてみることにしましょう。

### ■若年ドライバーの事故発生率は高い

下図は、年齢層別免許保有者10万人当たりの交通事故および死亡事故件数を示したものです。左側の交通事故では、16～24歳の若年ドライバーの事故発生率は、30歳以上の年齢層の2倍以上の発生率です。つまり、この年齢層の若年ドライバーが最も事故を起こしやすいということです。

図：原付以上運転者（第一当事者）の年齢層別免許保持者10万人当たり交通事故件数（平成19年中）  
（警察庁交通局、平成19年中の交通事故の発生状況による。）



### ■若年ドライバーの特性

#### ◎運転経験が浅い

若年ドライバーは運転経験が浅いということがあげられます。そのため、運転中に、危険な状況を正しく認知し、的確な判断をすることが、経験不足などにより、正しくできないことが考えられます。運転は、「認知・判断・操作」によって成り立っており、そのどこかにミスが発生すると事故に結びつくといわれていますが、若年ドライバーは、そのいずれについても不十分な面がみられます。

#### ◎運動能力が高く、実力を過信しやすい

若年ドライバーは他の年齢層に比べると、運動能力や視力などの身体機能は優れています。しかし、一方でそれが過信につながることもあります。運転経験が浅いにもかかわらず「自分は運転がうまい」「事故を起こすわけがない」と思い込み、スピードの出し過ぎや強引な追越しなどの危険な運転に結びつきます。



## 事故防止のポイント

### \* 運転は社会的行為であることを自覚しよう

車の運転は、個人的で趣味的な行為ではなく社会的な行為です。ドライバーが守らなければならないルールがあります。ルールを破れば、安全は確保できません。万一、事故を起こせば被害者を悲惨な状況にさせるだけでなく、運転者も、被害者への損害賠償義務を負ったり、懲役や罰金、免許取消し等の処分を受けることになります。そのことをしっかりと自覚してハンドルを握りましょう。

### \* 他車や自転車、歩行者は「交通パートナー」という意識を持とう

自分の思い通りに走れないからといって、感情的な気分になると、強引な追越しなどの無謀な運転を招きます。他車や自転車、歩行者は、同じ道路を利用する交通パートナーだと考えましょう。それによって、相手に配慮した運転や譲り合いができるようになります。

### \* 危険な状態を作らない運転を心がけよう

自分の運転能力を過信すると、危険な状態になってもブレーキやハンドル操作で回避できると考えがちです。確かに、状況によっては、急のつく操作で危険を回避しなければならないケースも生じますが、急のつく操作は事故を招く行為であるとともに、急のつく操作が必要な運転をすること自体が問題なのです。適正な車間距離をとる、スピードを抑える、危険を予測するなどにより、急のつく操作が不要な運転、危険な状態を作らない運転を心がけましょう。